

(様式3)

## 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年9月12日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0872500095		
法人名	医療法人 一貫堂会		
事業所名	グループホーム 一貫堂	ユニット名	今朝
所在地	〒319-2262 茨城県常陸大宮市下町229		
自己評価作成日	平成24年2月15日	評価結果 市町村受理日	平成24年9月10日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0872500095&amp;SCD=320&amp;PCD=08">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0872500095&amp;SCD=320&amp;PCD=08</a>
-----------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成24年4月10日	評価確定日	平成24年8月27日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>※ 医療法人で理事長が医師であるため、24時間の医療が保たれている。</p> <p>※ 入居者は年々高齢化しており、家族の協力をえながら、看取り介護も行っている。看取り介護を実施するときは、家族の協力を一番に必要とするが、何時でも誰かが傍にいて声をかけており、童謡や懐メロを流して寂しさを感じさせない介護に努めている。</p> <p>※ 本体で通所介護・通所リハビリを行っており、週3回程度理学療法士・マッサージ師によるリハビリ訓練をグループホームでも行なっている。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所全体で看取り介護に積極的に取り組んでいる。</p> <p>代表者が医師であり、近隣においてクリニックを開業しているほか、事業所に看護職員を配置している。</p> <p>看護職員がクリニックと連携を図り、利用者の緊急時には24時間対応が可能となっており、医療依存度の高い利用者でも安心して生活している。</p> <p>家族的な係わりを大切にしており敬老の日やクリスマス、誕生会などには職員が選んで購入したプレゼントを渡すことが習慣となっており、生活を楽しむ工夫をしている。</p> <p>家族等がいつでも泊まれるように簡易ベットを備えている。</p>
--

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関 ホール等に掲示してある。又、パンフレットやホーム便り等に記載されている。職員ミーティング・カンファレンスの時も話し合いの場をもうけている。	「住み慣れた地域での社会参加を積極的に支援します」を理念の一つに掲げ、事務所や相談室に掲示するとともに職員は朝礼時に唱和して理念の共有を図り、日々のケアにおいて実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内の夏祭り・一貫堂会夏祭り（地域住民参加あり）・小学校の運動会等に参加する。又、町内会の一員として回覧板も大切にしている。頻繁に出掛ける散歩時は地域の皆さんとの会話も弾む。	町内会に加入し、利用者が回覧板を届けたり地域の夏祭りや公民館で開催される高齢者対象の交流会に招待されるなど、地域の一員として日常的に活動している。 地域のボランティア協会の訪問を受け、利用者と一緒に歌を歌ったり、お茶を飲みながら和やかに交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	誰もが自由に入出りできる場所、又子供達との交流をいかして入居者の生甲斐とする。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会等に参加してもらいグループホームの意見等の交換を行っている。又、ボランティア訪問は以前と同様協力していただいている。	運営推進会議は利用者や家族会の代表、町内会の代表、民生委員、地域包括支援センター職員などで2ヶ月に1回開催している。 会議では利用者の心身の状態や現在受けているサービスの内容を報告するほか、利用者の希望にそった安全な外出方法や災害時の防寒対策などを話し合っている。 改善策として利用者が一人で外出した場合の近隣住民による見守りやストーブの寄贈の協力を得ており、サービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常陸大宮グループホーム連絡協議会には、市職員に同席してもらい情報交換や相互交流を行っている。何時でも気軽に電話や訪問ができる為、協力体制は出来ている。	地域のグループホーム連絡協議会に加入し、定期的に市担当者を招いた研修会に参加し、介護保険法改正などの情報交換をしている。書類作成などの相談は随時電話で行うほか、市担当者からは空室情報の問い合わせなどがあり、日常的に協力体制を築き、利用者の生活を市と協働して支え合えるように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	限界までは1対1の対応で行っている。身体もしくは生命に危険性がある場合には家族と相談をし、最小限度短時間で実施する可能性もある。その時は家族と承諾書を取り交わしている。現在対象者はいない。	月1回の職員ミーティングにおいて、身体拘束をしないケアについて取り上げるとともに、日々のケアの中で身体拘束をしていないか職員で確認し合っている。やむを得ず身体拘束をする場合の要件を全職員が正しく理解できるようマニュアルを整備している。「身体抑制の同意書」を作成し、必要に応じて家族等と話し合いができる体制を整えているが、現在身体拘束を必要とする利用者はいない。玄関は防犯上施錠しているが、利用者が自分で自由に解錠できるようになっており、中庭に出るサッシ窓は開け放たれて出入りが可能となっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングやカンファレンス等で自分で取った行動が虐待に値するか等話し合っている。マニュアルの作成あり。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティング・研修等で職員同士で権利擁護や成年後見制度の必要性について話し合いの機会を持っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得  契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約は家族と本人が同席して説明を行い、理解と納得を得ている。	/	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映  利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に記載あり。玄関に意見箱を設置して対応をしている。	日々のケアの中で利用者のつぶやきを記録し、利用者からの意見や要望を職員で共有する取り組みを行っている。 重要事項説明書に苦情相談受付窓口を明記し契約時に利用者や家族等に説明するとともに、玄関に意見箱を設置している。 意見箱の利用がみられないため、昨年度の外部評価結果を受け無記名アンケートを実施し家族等の意見や要望を汲みあげることができているが、それらを運営に反映させるまでには至っていない。	無記名アンケートの実施により汲みあげた家族等の意見や要望を職員で話し合い、具体的な対応方法を検討するとともに、今後の事業所としての方針や改善結果を事業所便りなどを利用して家族等にわかりやすく報告することが望まれる。
11	7	○運営に関する職員意見の反映  代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや緊急を要するときは臨時会議を開催し、意見や提案を話し合っている。	月1回ミーティングを開催し、職員が運営に関して提案できる機会を設けている。 会議では車いすで安全に外出ができる方法やトイレの扉や便器の交換など職員の意見や要望を話し合い、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備  代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	終業規則に基づいている。	/	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間研修計画を作成し、一貫堂合同で社内研修を行っている。県・市又は各関係機関等からの研修も勤務に支障のない限り参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	常陸大宮グループホーム連絡協議会を結成しており、行政と一緒に情報交換（県・国等からの伝達事項）や研修を行いサービスの質の向上を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用の相談があった時点で、本人と面談を実施し、現状についてや今後の意見等を聴き、理解できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用の相談があった時点で、家族と面談を実施し、現状についてや今後の意見等を聴き、理解できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点で、本人や家族がどのような支援を必要としているかを考慮し、必要があれば他の事業所と連絡調整を行い適切なサービスが受けられるように対応する。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自分で出来ることは時間がかかっても可能な限り自分で行ってもらい、昔ながらの季節行事に関する事等は、利用者と話し合い、相談しながら実施する。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居している状態であっても、情報を共有し気分転換を行っていただく等、協力を家族に負担にならない程度にお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人がこれまで関係してきた馴染みの関係性を大切に（特に面会時のフォローアップ）継続していくように支援に努めている。	入居時に家族等から話を聞き、利用者のこれまでの生活歴を把握するよう努めている。 毎年年末には全利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や家族等に年賀状を送ることができるよう支援している。 家族等の家に外泊したり墓参りに出かけたりして、これまでの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや外出行事に積極的に誘い合い参加できるようにしている。又、余暇活動で昔馴染みのカラオケを一緒に歌って楽しんでいる。皆と一緒にホールで過ごす時間を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所者の家族が時々立ち寄り話をしてしている。又、住宅での介護困難時は、在宅・入居を繰り返しながら家族の介護疲れも考慮してお付き合いをしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	殆どの入居者は自宅での生活を望んでいる。希望を聞き入れたいが家族の事情で在宅生活は困難をきたす為、昔ながらの行事等を取り入れたりし、家庭的な雰囲気作りを支援している。入居者一人ひとりに合った意向の把握に努め、職員で共有している。	日々の介護記録の中に利用者一人ひとりの思いや意向が確認された箇所に印をつけて職員で共有を図り、利用者本位のサービス提供に努めている。  利用者の言葉にならない思いは、日々の支援の中で表情や態度から気付いたことを介護記録に記載し、全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面接時、本人・家族と話し合いを行っている。又、ケアマネから情報提供をしてもらい経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日のバイタルチェックやその日の健康状態や行動を把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	今現在の残存機能をいかに低下させないか理学療法士・作業療法士の指導を受けながらモニタリングを行っている。 又、理学療法士・作業療法士・マッサージ師等週に2～3回来所している。医師と連携を保ち介護計画を作成している。	毎日の介護記録を基にミーティングにおいて管理者や介護支援専門員、職員で意見やアイデアを出し合い、利用者の思いにそった介護計画を作成している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は随時検討し、介護計画を見直すとともに家族等に説明して同意を得ている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個人記録や日誌がある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本体の通所サービスで交流をしたり、本体と一緒に一貫堂祭に参加して、金魚すくい・綿飴作り・ヨーヨー釣り等、童心に帰って楽しんでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事等にはボランティアの協力をいただいている。地域小学校・中学校の生徒さん達との交流を行っている。頻りに避難訓練を行っており消防関係者との協力も得ている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族・本人の希望のかかりつけ医もあるが、当グループホームは医療法人で理事長が医師のため週1回定期診察と、緊急時他医療機関の紹介はスムーズに行われている。医療の支援体制はできている。	入居前のかかりつけ医を変更することなく、必要に応じて納得が得られた医療機関に受診ができるよう支援している。 家族等が付き添って受診する場合は、職員は利用者の様子を医師に情報提供し、家族等から受診後の報告を受けている。 法人代表である医師が週1回訪問診療に来訪しているほか、他の医療機関に受診が必要な場合は医師同士が連携を図り、情報を共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホーム・クリニック・通所サービス等の情報交換や職種別ミーティングを行っており、日々の健康管理や医療活用の支援は出ている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師同士の情報提供や入院期間はソーシャルワーカー・病棟看護師等と常に連携を取り早期退院に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に入った入居者の家族に今後の意向を確認し、グループホームで終末期を迎える入居者に対しては、医師・看護師・管理者・家族・担当介護士と話し合いを持っている。1日1日と変化する容態をその日の介護者・夜勤者と密に連携を取っている。同意書・看取りの指針は作成してある。	入居時に重度化した場合の事業所としての対応方針を家族等に説明し同意を得ている。 入居途中においてもアンケートを実施し、医療行為実施など利用者や家族等の意向を確認している。 入居後も利用者の段階毎に重度化や終末期に向けた意向調査を行い、延命治療などの意思確認をしている。 現在は終末期の利用者はいないが、看取りケアカンファレンス記録を整備し、いつでも地域の医師や看護師、全職員でのサービス提供が可能な体制となっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医師により、感染症・AEDの使用方法等研修を行っている。又、消防署による救命法の講習にも参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て避難訓練を実施している。避難訓練時、近隣住民に協力の呼びかけを行い一緒に消火器の使い方等、実際に行っている。備蓄の保管（水・缶詰など）も用意している。	消防署立会いのもと、地域住民の参加を得ながら夜間想定を含めた避難訓練を年2回実施するとともに実施記録を作成している。 前回の訓練で明らかになった課題について具体的な対策を構じるまでには至っていない。 災害時に備えストーブや利用者の冬物衣類を物置に常備するとともに、米や缶詰、飲料水を備蓄しているほか、近隣には洗濯などに利用できる井戸がある。	避難訓練が前回の課題を踏まえたものになるよう、開催前の事前準備が望まれる。 避難訓練で明らかになった反省項目について職員で話し合い、改善に向けて話し合った内容を記録に残すため、項目わきに記入するなど独自の工夫を期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	マニュアルの作成あり。入居時に重要事項説明書で、家族・本人に説明している。職員一人ひとりが把握して行動している。	個人情報保護マニュアルを整備するとともに、全職員が利用者の気持ちを尊重した声かけをするなど、プライバシーに配慮した支援に努めている。 利用者個人のファイルは居間のキッチンカウンター下に保管し、その他の書類は鍵のかかる事務所に保管しているが、書類の背表紙に記載された個人名が明らかになってしまっている。	必ずしも保管場所の変更や保管ケース等の購入を求めるものではないが、個人情報保護の観点から、個人名の記載されたファイルは外部の訪問者の目に触れないような配慮の工夫が望まれる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ショッピング・散歩・季節ごとの行事の参加・カラオケ等自発的に希望を表出できる。又、選ぶことができるため積極的に支援を行っている。（盆・正月が外出・外泊希望者の家族に連絡をとり協力してもらう）			
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気持ちを優先し、出来る限り希望に沿えるように支援を行っている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理容ボランティアのらい所があり、髪を切り整えてもらう。その日の洋服を自分で選択してもらう等の支援をしている。外出時等には化粧品・マニキュアなどでお洒落をしている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日入居者と職員一緒に賑やかに食事をしている。又、誕生会や行事ごとに特別料理で楽しんでいる。目先を変えて時々外食を楽しむこともある。 食事の準備、お茶の配布、お茶碗拭き等職員と一緒にやっている。	献立は職員が検討して作成し、食材の買出しには利用者も一緒に出かけ食材選びをしている。 利用者は食事の準備や後片付けなどできることは役割を担って取り組んでいる。 職員は利用者と一緒に楽しく会話を交わしながら同じ食事を摂っている。 食事が楽しみなものとなるよう日曜日に刺身を提供したり、手作り弁当を持って花見や公園めぐりを定期的に行っている。 利用者は誕生会や季節行事のおやつ作りを職員と一緒に楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の指導のもと、カロリーや栄養バランスを確保している。 水分量が気になる入居者は1日の水分量を記録し水分摂取に注意している。又、嚥下困難な入居者は、トロミ食・刻み食・ミキサー食と経口からの摂取に心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアは行っている。 ミキサー食等の摂取者は舌のケアも行っている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	出来るだけオムツ使用は避けている。尿意・便意の無い入居者は、パターンを把握し（失敗することもある）時間でトイレ誘導を行っている。	全職員は排泄チェック表を活用し利用者の排泄パターンを把握している。 利用者一人ひとりの排泄のタイミングを図りながら、トイレでの自立した排泄ができるよう声かけとともに介助に努めている。 トイレは全てが車いす対応で広く、可動式の手すりを設置して介助が必要な状況でも排泄の自立に向けた支援ができるよう工夫をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多いおやつ等を工夫したり、水分補給・運動（毎日ラジオ体操やストレッチ運動を行っている）等の対策を行っている。毎日の排便の有無を記録しており、状況によっては医師の指示を仰ぎ処置を行う。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	午後と夕方の2回に分けて、入浴を行っている。入居者の希望で入浴時間を決めている。	毎日入浴ができる体制を取り、利用者の希望にそった時間に入浴ができるように支援している。入浴に対して負担感や恐怖心、羞恥心等を感じている利用者でも入浴を楽しむことができるよう、一人ひとりに合わせて声かけを工夫したり、季節に合った入浴剤を利用するなど配慮をしている。	
46		○安眠や休息の支援  一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室温管理や換気を行い、天気の良い日には布団を干し日光消毒し気持ちよく眠れるような支援を行っている。		
47		○服薬支援  一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬示書をファイルしてあり、職員全員に把握できるようにしてある。服薬内容が変更になった時は申し送りを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション・ショッピング・犬の世話・等、自分で出来るものを行い、気分転換ができるように支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援  一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、近くの公園や神社に散歩に出かけたり、観梅・桜観・紫陽花観賞・かかし見学・弁当を持ってピクニック等、外に出る支援を行っている。	利用者は日常的に散歩や食材購入のために出かけている。 年間行事予定を作成し、定期的に気分転換を図れるように全利用者と職員で外出を楽しんでいる。 花見や公園に出かけたり、演奏会、夏祭り、近隣の高齢者の交流会などに招待されて外出している。 個別の要望に対しては家族等の協力を得ながら外出ができるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	しまい忘れ等あるため、管理は事務所で行っている。又、小遣い程度の管理が出来る入居者は自分で管理している。ショッピングでは、自分でお金を所持し介助によって買い物が出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	会話が出来る入居者は電話をかけたり、受けることをしている。又、お正月には一人ひとり家族に年賀状を担当スタッフと作成して発送している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は快適に過ごせるように考慮し、季節感を感じさせるような花や小物で演出したり、作業療法で季節ごとの塗り絵や壁画を作成している。又、ホールや居室から中庭の紅葉等が楽しめる。	食堂兼居間は各ユニットが合同で利用できる設計となっており、開放的で中庭には車いすでも出入りがし易くなっている。 テーブルには季節の草花を飾っているほか、壁面には利用者と職員が協働で制作したちぎり絵や折り紙を飾り、居心地よく過ごせる空間づくりをしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有の場では気の合った入居者同士で、トランプ・カラオケ・オセロ・将棋等を楽しんでいる。又、静かに過ごしたい時は、自室で思い思いに過ごしている。	/	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自室には自分の使い慣れたもの、思い出のある物を持ち込み、落ち着ける居室になるよう家族と相談して工夫をこらしている。	利用者は自宅で使い慣れた布団や籐の椅子を持ち込むとともに、家族等の協力を得ながら家族写真やぬいぐるみを飾ったり、カレンダーを掛けるなど、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホームのいたるところに手すりがあり、歩行訓練を兼ねての自立移動が出来るよう、トイレ・風呂場の表示、自室の入り口には担当スタッフと作成した表札と写真を設置している。それによって間違いが少し減り、自分で出来る・行ける自信をすけるよう支援している。	/	

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

## 目標達成計画

事業所名 グループホーム一貫堂

作成日 平成24年9月7日

### 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	避難訓練が前回の課題を踏まえたものになるよう、開催前の事前準備が必要	反省点を職員間で話し合い、改善にむけて記録を残す	避難訓練を行ったら、定期ミーティングで実施内容、反省点などを発表し、改善内容を話し合う。話し合った内容は、記録用紙を作成し、誰もがわかるように徹底する。	6ヶ月
2	36	個人ファイル名が明らかになってしまっており、プライバシーの配慮が必要である。	個人ファイル等のプライバシーの配慮	個人名の記載されたファイルは外部の訪問者の目に触れないよう徹底する。	6ヶ月
3	10	無記名アンケートで出た意見や要望を職員で話し合い、対応方法を検討するとともに、今後の方針や改善策を家族に報告することが必要である	アンケートで出た家族の意見や要望を話し合い、対応策を検討し、家族へわかりやすく報告する	家族会などでアンケートを実施し、その後のミーティングで話し合い、グループホーム便りなどで結果と対応策を載せる	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。